

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律に基づく第一種  
使用規程の承認申請案件に対する意見募集の実施結果について  
(平成 17 年 3 月 11 日～平成 17 年 4 月 11 日(イネ8件、ダイズ1件、テンサイ1件、トウモロコシ2  
件、ワタ1件))

## 1. 意見募集方法の概要

### (1) 意見募集の周知方法

- ・関係資料を環境省、農林水産省ホームページに掲載
- ・記者発表
- ・資料の配付

### (2) 意見提出期間

平成 17 年 3 月 11 日(金)から平成 17 年 4 月 11 日(月)まで

### (3) 意見提出方法

郵送、ファクス又は電子メール

### (4) 意見提出先

環境省自然環境局野生生物課又は農林水産省消費・安全局農産安全管理課

## 2. 意見募集の結果(関係省に提出された意見の合計)

- |               |    |
|---------------|----|
| (1) 意見提出数     | 2通 |
| (2) 整理した意見の総数 | 3件 |

## 3. 意見の概要と対応方針について

別紙のとおり

(別紙) 「遺伝子組換え生物等の第一種使用規程の承認申請案件」に対する意見の概要及び対応方針について  
 (平成17年3月11日～平成17年4月11日(イネ8件、ダイズ1件、トウモロコシ2件、テンサイ1件、ワタ1件))

該当箇所	意見要旨	対応方針	件数
1 全体及び隔離ほ場試験等を開始する11案件について	<p>「学識経験者の意見」を参考に検討した結果、いずれも生物多様性影響が生じるおそれはないと判断されるので、速やかに承認されるようお願いする。</p> <p>隔離ほ場試験及び研究機関の試験ほ場における栽培に関わる11案件については、栽培試験の開始に支障を来さないよう遅くとも4月末までに承認頂きたい。</p>	<p>第一種使用規程の承認については、カルタヘナ法等に基づき聴取した学識経験者の意見のほか、カルタヘナ法第3条に基づく基本的事項及びパブリックコメント手続により寄せられた意見・情報を勘案して判断することとしています。</p>	1
2 除草剤グリホサート耐性ダイズについて	<p>ダイズとツルマメとの交雑率は極めて低く、また、我が国のツルマメ集団において、栽培ダイズ特有の遺伝特性を示す比率が極めて低いことを示している信頼度の高い文献がある。併せて、本組換えダイズのツルマメとの交雑性が非組換えダイズに比べて高まることがないと立証されていることから、我が国におけるダイズ栽培の長い歴史に鑑み、本遺伝子組換えダイズを第一種使用規程に従って使用した場合、あらためて調</p>	<p>本組換えダイズについては、わが国在来の近縁野生種であるツルマメと自然交雑する確率は極めて低いと考えられ、まれに交雑したとしても両者の雑種が野生植物を駆逐することは考えにくいこと、また、組換えダイズに移入された遺伝子がツルマメ集団中に低い割合でとどまらず、拡散してゆく可能性も確率的に極めて低いこと等から、交雑性に起因する生物多様性影響が生じるおそれはないと判断しています。ただし、科学的な知見の充実の観点から承認取得者に対し、本組換えダイズの栽培地周辺にツルマメが自生している場合にはそのツルマメ群落を対象にして、本組換えダイズに移入された遺伝子の拡散の状況について情報収集を行うことを求めていくこととしています。</p>	1

		<p>査を行うまでもなく、交雑性によって生物多様性に影響を及ぼすことはないとの結論は科学的に十分了解できるものとする。</p>		
3	<p>スギ花粉症予防効果ペプチド含有イネ並びにいもち病及び白葉枯病抵抗性イネについて</p>	<p>スギ花粉症は、多くの国民に影響を及ぼし社会問題化している。本遺伝子組換えイネの開発は、大きな可能性のある技術の一つである。本申請については速やかに手続きを進め新しいスギ花粉症治療の技術を作り上げて欲しい。</p> <p>また、いもち病と白葉枯病は、稲作における重要病害の一つであり、本組換えイネの開発は、食糧の安定供給に貢献できる技術の一つになる可能性があり、実用化に向けて更なる検討を行うために、迅速な手続きを進めて欲しい。</p>	<p>第一種使用規程の承認については、カルタヘナ法等に基づき聴取した学識経験者の意見のほか、カルタヘナ法第3条に基づく基本的事項及びパブリックコメント手続により寄せられた意見・情報を勘案して判断することとしています。</p>	1